



両岸で花咲かせ



国 籍	中国
職 種	加熱性水産加工食品製造業
実習実施者	株式会社白老フーズ
監 理 団 体	渡島国際交流事業協同組合

韩 雅 静

HAN YAJING

あつという間に、私は日本に来てもう3年目になりました。来る帰国の日を待ち望んでいるかと自分自身に問えば、その答えは、いいえです。

中国にいた時、私は工場でたくさんの汗をかきながら仕事をしたり、携帯電話の販売店で接客の仕事をしたり、幼稚園で多くの子どもを目の前にして先生をしていました。

これらの仕事の転職理由は、給料に不満があつたり、将来性がない等でした。自分はいつたい何をしたいか悩んでいました。悶々と悩んだ挙句、私はとりあえず日本に行こうと思い切りました。今振り返ると、この私の決心は、日本に来てよかった、技能実習生として実習して良かったと胸を張って言えます。

今の水産加工の仕事先に入った時、大変なことがいっぱいありました。

まずは包丁での魚の取扱いに悩みました。作業のスピードについていけない。そのせいで、先輩に厳しく指導されました。手がしびれた時、先輩が優しく手伝ってくれることもありました。日々の練習を通じて私は魚の解体時間を2分から1分に縮めたり、重いダンボールも一人

で持ち歩けるようになりました。仕事を益々こなせる度に私は振り返って考えました。

自分が仕事を通じて何を得たのか？給料、仕事の経験、いずれかではあるだろう。仕事に目を向ければ、得たものはたくさんありますその中でも私が重要だと思うのは、仕事の一連のフローチャートと食品安全衛生の意識ですこれから私が中国に帰り、水産加工工場の現場において仕事をしたとき、自分自身が食品安全衛生の意識を持って作業することは、自信をもって出来ると思います。しかしながら、中国の工場での環境下では、打ち消されてしまって一個人の成長が全体の環境改善に寄与しないことが考えられます。けれども、私たち技能実習生は技術を習得した以上、日本の先進技術とその技術を活かした製品をとをもって、今よりもっと食品安全衛生の意識を広めるべきだと思います。以前、工場長にこのよう聞かれました。中国に帰ったらどんな仕事をするの？その時私は、返答に困りましたが、今の私なら胸を張って答えられます。中国の食品加工工場の技術指導者になりたいとなので、日本にいる最後の日まで、水産加工のノウハウを勉強して、中国の地で勉強した成果を花のように咲かせたいと思っています。中国の地で少しでも多くの工場で、私の習得した技術で加工の水準を改善できるように頑張りたいと思っています。